

令和2年度（令和元年度対象）

教育委員会の点検・評価

令和2年8月

洞爺湖町教育委員会

も く じ

I	はじめに	1～2
	1. 点検及び評価とは	
	2. 洞爺湖町教育委員会の点検及び評価	
	(1) 評価の流れ	
	(2) 評価の対象	
	(3) 事務事業における評価者	
	(4) 評価シートの作成	
	(5) 達成度評価基準	
	(6) 行政評価委員による意見・提言	
	3. 教育行政評価の公表	
II	教育委員会の活動状況	3～6
	1. 教育委員会議の開催状況	
	2. 委員の活動状況	
III	事務事業評価及び評価委員の意見・提言	7～37
IV	資料 (別添)	
	1. 令和元年度教育行政執行方針	
	2. 令和元年度各種事務事業の実績等	

I はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律（以下「改正法」という。）が、平成20年4月1日から施行されました。この改正法では、「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」が教育委員会に義務付けられています。

1 点検及び評価とは

教育行政の点検及び評価とは、洞爺湖町教育委員会が行っている行政活動（施策・事業）をどのような成果を上げたのかという観点から点検・評価し、その結果を改革・見直しに結びつけ、行政運営の質の向上を図るものです。また、住民にわかりやすく説明することによって、行政活動の透明性を高めるための経営手法でもあります。

(1) 点検及び評価の目的

点検及び評価の目的は、

- ①政策や行政活動（施策・事業）の質を向上させること。
- ②行政の説明責任を果たすこと。
- ③教育行政に対する町民満足度を高めることです。

2 洞爺湖町教育委員会の点検及び評価

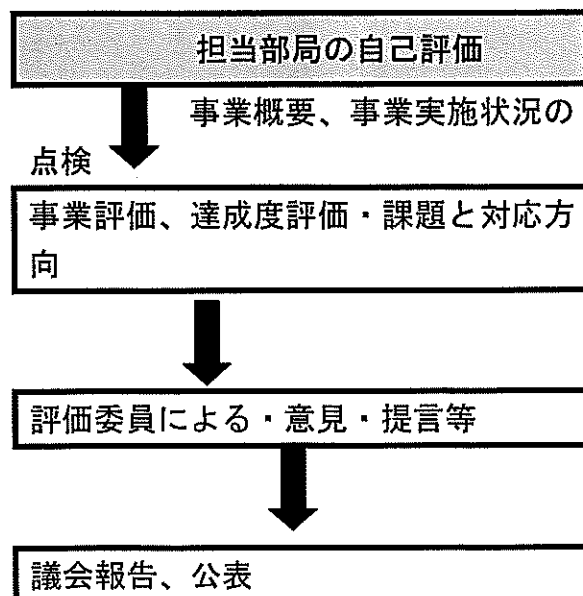
教育行政の点検及び評価をまとめて、「行政評価」とします。

(1) 評価の流れ

教育委員会による自己評価に外部の視点から評価委員の意見を組み込むことにより、行政評価の客観性や改革・見直しの実効性を高めていきます。

各担当部局では、全事務事業を対象に、所定の評価シートを用いて「自己評価」を行います。

その後、評価委員が各事務事業に対する意見・提言等を示します。



(2) 評価の対象とする事務事業

前年度の「教育行政執行方針」に明記された事務事業の主なものを評価対象とします。

なお、個々の事業をまとめた「主要施策」ごとに評価シートを作成し、評価事務の簡略化及び明確化を図ります。

※ 教育行政執行方針の括りを「推進項目」…大項目、「主要施策」…中項目、「事務事業」…小項目に分類します

(3) 事務事業における評価者

事務事業評価は、担当部局が評価者となり、評価シートは所管課が作成します。

(4) 評価シートの作成

- ①「主要施策」に括られた「事務事業」の概要を記載
- ②上記事務事業の実施状況を簡潔に記載
- ③事務事業ごとの決算額を記載（過去2ヵ年）
- ④担当部局の「評価」を事務事業ごとに簡潔に記載
- ⑤「達成度」について、下記の基準により評価し、簡潔な説明を記載
- ⑥「課題と対応方向」について、具体的に記載

(5) 達成度評価基準

評価対象事務事業について、事業の達成度についてA～Dの4段階で評価します。

評価	事業達成状況	
A	予定事業の実施状況について	概ね達成できた
B		一部に未実施があったが、達成度は比較的高い
C		未実施のものが多く、達成度が低い
D		ほとんど実施できなかった

(6) 行政評価委員による意見・提言

担当部局が作成した「主要施策」ごとの評価シートを行政評価委員に提示・説明し、施策・事業への意見・提言を求める。

3 教育行政評価の公表

行政評価委員の意見・提言等を記載した評価報告書を町議会に提出し、町ホームページ等で公表します。

＜報告書内容＞

- ①教育委員会活動報告
- ②事務事業評価シート
- ③教育行政執行方針（参考）

II 教育委員会の活動状況

1. 教育委員会議開催状況

令和元年第2回臨時会 5月17日

番 号	案 件
報告第 7 号	管理課所管の各種事務事業の取組状況について
報告第 8 号	社会教育課所管の各種事務事業の取組状況について
指名第 1 号	洞爺湖町教育委員会教育長の職務代理者の指名について
議案第 17 号	洞爺湖町教育委員会傍聴規則の一部改正について

令和元年第3回定例会 7月25日

番 号	案 件
報告第 9 号	臨時代理の報告について（洞爺湖町教育委員会部局の人事異動）
報告第 10 号	臨時代理の報告について（洞爺湖町議会令和元年6月議会提出一般会計補正予算（第1号））
報告第 11 号	管理課所管の各種事務事業の取組状況について
報告第 12 号	社会教育課所管の各種事務事業の取組状況について
報告第 13 号	平成30年度洞爺湖町学校給食会計決算について
議案第 18 号	洞爺湖町教育委員会教育長に対する事務委任規則の一部改正について
議案第 19 号	洞爺湖町表彰条例に基づく被表彰候補者の内申について

令和元年第3回臨時会 8月29日

番 号	案 件
報告第 14 号	社会教育課所管の各種事務事業の取組状況について
議案第 20 号	令和2年度から使用する小学校用教科用図書について
議案第 21 号	令和2年度から使用する中学校用教科用図書について
議案第 22 号	令和元年度（平成30年度対象）教育委員会の点検・評価について

令和元年第4回臨時会 9月30日

番 号	案 件
報告第 15 号	臨時代理の報告について（洞爺湖町教育委員会部局の人事異動）
報告第 16 号	臨時代理の報告について（洞爺湖町議会令和元年9月会議提出一般会計補正予算（第2号））

報告第17号	社会教育課所管の各種事務事業の取組状況について
議案第23号	洞爺湖町立学校管理規則の一部改正について
議案第24号	洞爺湖町保育所条例施行規則の一部改正について

令和元年第4回定例会 10月30日

番 号	案 件
報告第18号	平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果概要について
議案第25号	洞爺湖町立学校に係る部活動方針の策定について

令和元年第5回臨時会 11月26日

番 号	案 件
報告第19号	社会教育課所管の各種事務事業の取組状況について
議案第26号	本町保育所と入江保育所の統合について

令和元年第6回臨時会 12月23日

番 号	案 件
報告第20号	臨時代理の報告について（洞爺湖町教育委員会部局の人事異動）
報告第21号	臨時代理の報告について（洞爺湖町議会令和元年12月会議提出一般会計補正予算（第3号））

令和2年第1回定例会 1月30日

番 号	案 件
報告第1号	社会教育課所管の各種事務事業の取組状況について
報告第2号	令和2年度当初予算要望概要について
議案第1号	洞爺湖町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正について
議案第2号	洞爺湖町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用者負担に関する条例の一部改正について
協議第1号	学校訪問総括について
協議第2号	保育所訪問総括について

令和2年第1回臨時会 2月16日

番 号	案 件
報告第3号	管理課所管の各種事務事業の取組状況について
議案第3号	令和2年度教育行政執行方針について

令和2年第2回定例会 3月25日

番 号	案 件
報告第 4 号	管理課所管の各種事務事業の取組状況について
報告第 5 号	臨時代理の報告について（学校教職員の人事異動について）
報告第 6 号	臨時代理の報告について（洞爺湖町議会令和2年3月会議提出一般会計補正予算（第4号））
報告第 7 号	臨時代理の報告について（洞爺湖町議会令和2年3月会議提出令和2年度一般会計予算（民生費・教育費関係））
報告第 8 号	臨時代理の報告について（洞爺湖町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正）
報告第 9 号	臨時代理の報告について（虻田未来づくりフォローアップ活動推進委員会設置要綱の制定）
報告第10号	令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果概要について
議案第 4 号	洞爺湖町教育委員会部局の人事異動について
議案第 5 号	洞爺湖町教育委員会職員の職名に関する規則の一部改正について
議案第 6 号	洞爺湖町立学校管理規則の一部改正について
議案第 7 号	洞爺湖町保育所条例施行規則の一部改正について
議案第 8 号	洞爺湖町特定教育・保育及び特定地域型保育事業の利用者負担に関する条例施行規則の一部改正について
議案第 9 号	修学旅行の引率業務等に従事する町立学校職員の勤務時間の割振り等に関する要領の一部改正について
議案第10号	虻田高等学校振興事業補助要綱の一部改正について
議案第11号	洞爺湖町教育委員会臨時職員等取扱要綱の廃止について
議案第12号	洞爺湖町学校施設長寿命化計画の策定について
議案第13号	洞爺湖町立学校における働き方改革指針の一部改正について

2. 委員の活動について

4月 2日	教職員辞令交付式
4月 5日	虻田小学校・洞爺湖温泉小学校・虻田中学校・ 洞爺中学校入学式
4月 6日	とうや小学校・虻田高等学校入学式
5月15日	洞爺湖町教育研究会総会（虻田小学校）
5月20日	洞爺湖マラソン大会
5月27日	管内教育委員会連絡協議会総会（室蘭市）
6月 7日	四者合同歓迎会
7月11日	北海道市町村教育委員研修会（札幌市）
8月 6日	姉妹都市箱根町親善訪問使節団歓迎式
8月23日	フレンドリーツアー三豊市小学生歓迎式
10月29日	虻田小学校公開研究会（同校）
11月 3日	洞爺湖町表彰式
11月13日	学校訪問（虻田高等学校・虻田中学校）
11月15日	虻田小学校公開研究会（同校）
11月21日	保育所訪問（4保育所）
11月18日	学校訪問（洞爺湖温泉小学校・虻田小学校）
11月20日	学校訪問（洞爺中学校・とうや小学校）
1月12日	洞爺湖町成人式
2月12日	胆振管内教育委員研修会（洞爺湖町）
～13日	

事務事業評価

及び評価委員の意見・提言

行政評価委員総括意見

令和元年度の教育行政執行方針に基づき実施した事業を25区分の主要施策に分け、主な事務事業について、各担当課の自己評価のもとに、第三者の立場から意見・助言を申し上げました。

評価対象の各種事務事業について、全体をとおして概ね予定どおり実施されており、課題や対応方向を抑え、次へのステップアップを見据えています。

この度の評価をとおして、特に次の点について申し上げます。

1点目は、これまで事業対象者を絞って実施していたものを、子どもたちと高齢者の世代間交流として1本化した事業として新たに実施されたり、これまでにない取り組みを評価します。今後においては同様の取り組みを期待するとともに、さらには課を越えて複数課による共同事業など、より良い事業の展開を期待します。

2点目は、乳幼児から高齢者まで幅広い事業が展開されています。洞爺湖町で育った子どもたちが、大人になってまた洞爺湖町に戻ってきたいと思う社会教育事業など教育全体の方向性をもって進められることを期待します。

3点目は、町内教育施設が全般的に老朽化してきており、教育環境の整備として特に虻田中学校そして虻田給食センターの施設整備をどうするのか、早急に検討が必要と思われます。

●洞爺湖町教育委員会行政評価委員

区 分	氏 名	摘 要
委員長	村上 正弘	洞爺地区
委 員	永井 信久	洞爺湖温泉地区
委 員	大西 栄美	虻田地区

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	Ⅰ 幼児期の保育及び教育の推進				
主要施策	ア 子育て支援の充実				
取り組みの概要 (事務事業)	①保育所及び私立幼稚園の利用者負担額の軽減対策の実施 ②一時預かり事業 ③町内私立幼稚園への制度に基づく支援 ④幼児教育・保育の無償化				
実施状況	①平成29年度より、洞爺湖町内に住所を有し就学前児童を扶養する保護者に対し、利用者負担額を2分の1助成することで経済的負担の軽減により子育ての支援を行った。 ②平成26年度に子育て支援センターで試行し、平成27年度から常設保育所で本格実施。虻田地区は本町保育所、洞爺湖温泉地区は桜ヶ丘保育所、洞爺地区は洞爺保育所で実施した。(各保育所定員1日2名) ※実績(延べ人数)本町保育所 53 名、桜ヶ丘保育所 180 名、洞爺保育所 97 名 計 330 名 ③町内私立幼稚園が、子ども・子育て支援法に基づく施設型給付施設へ移行したことにより、制度の趣旨を踏まえた給付費の支援を実施した。(3/1 洞爺湖町在住児童 41 名) ④令和元年10月からは、幼児教育無償化がスタート。3歳以上については利用者負担金(保育料)を無償 また、副食費月額 4500 円の負担額については、2分の1助成を実施した。なお、3歳未満児については、非課税世帯は無償とした。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(元年度)	
		30年度	元年度	国・道	その他
	①利用者負担金助成	12,368	11,024	0	7,000
	②常設保育所運営事業(一時預かり事業)	6,240	6,317	3,200	594
	③私立幼稚園施設型給付費事業	27,011	29,807	17,721	0
④幼児教育・保育の無償化	0	9,974	9,974	0	
評価	①利用者負担額を2分の1助成することにより、保護者の働きやすい環境を整えることができた。 ②3地域でそれぞれ実施され、利用者も定着しており、地域の子育て支援のサポートができた。 ③町内私立幼稚園が、新制度による施設型給付施設へ移行したことに伴い、当該施設と連携を図り、適切に給付を実施することができた。 ④令和元年10月から幼児教育無償化により3歳以上児については、副食費のみの負担となったが、利用者の負担額を2分の1助成することにより、保護者の負担を軽減することができた。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	①特になし		今後も継続して実施していく。		
	②1日利用者数		利用者にも定着してきており、現行の体制において、利用者数を1日2名の定員を維持する。		
	③特になし		私立幼稚園施設型給付費事業は、大きな問題もなく実施することができた。		
	④特になし		今後も継続して実施していく。		
評価委員の意見・提言	子育て支援充実のため、継続して事業を進めていただきたい。				

令和2年度(令和元年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	Ⅰ 幼児期の保育及び教育の推進				
主要施策	イ 保育所の運営充実				
取り組みの概要 (事務事業)	①幼・保・小連携の充実の活動推進				
実施状況	①・小学校参観日等に所長若しくは保育士の参加により、学校での就学した児童の様子の見学を実施するとともに、意見交換を行った。 ・3月には保育所児童要録(小学校就学児対象)を個別に作成し、持参による提出で各小学校へ引継ぎを行い連携を図った。 ・小学校の朝読書の時間を利用して、新一年生を対象に連携を図るため保育所長が読み聞かせなどを行った。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(元年度)	
		30年度	元年度	国・道	その他
	①保育の質の向上のための研修事業	65	43	21	0
評価	①児童要録は教育にかかわる視点で「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の項目で構成されており、具体目標に沿った児童の状況を記載している。小学校教員と直接引継ぎを行っているほか、学校側からの保育所への期待など確認し保育に取り入れている。小学校一年生を対象に実施した読み聞かせでは、子どもたちや教員にも大変好評で保育士が定期的に来校することで子どもたちも安心した学校生活を送ることができる一因となっている。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	課題	対応方向			
	①特になし	・今後も学校・幼稚園・保育所、教員・幼稚園教諭・保育士相互の交流を通じ、就学に向けて必要な連携を図っていく。 ・平成30年度より適用された児童要録はより具体的に記載することにより、児童の状況をより具体的に引継ぎを行うことができる。記載の表現など研修を重ねていく。 ・保健師および小学校との連携により、支援を要する児童も含めたスムーズな就学に向けた取り組みを図る。 ・新一年生を対象とした読み聞かせについては、継続して実施する。			
評価委員の意見・提言	引続き幼・保・小の連携充実に努めていただきたい。				

令和2年度(令和元年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	Ⅰ 幼児期の保育及び教育の推進				
主要施策	ウ 子育て支援センター事業の推進				
取り組みの概要 (事務事業)	①子育て支援体制の連携				
実施状況	①・子育てセミナーは栄養士、保健師や社会教育課などとの連携のもと、事業を実施した。 ・今年度も、親子ふれあい遊び「お父さんと一緒に遊ぼう」を開催し、父親も参加しやすい日曜開催を取り入れて実施した。 ・社会教育事業のブックスタートに同行し、幼児期の読み聞かせの大切さなど周知した。 ・各保育所で月1回の保育所開放を実施し、保育所との連携を図っている。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(元年度)	
		30年度	元年度	国・道	その他
	子育て支援センター運営事業	4,958	4,865	3,242	0
評価	①・子育て支援センターでは、子育て支援に関するアンケートを実施しており、各種事業は概ね好評を得ており、子育てセミナーは参加者の意向を踏まえ、毎回募集型で実施し参加しやすい環境づくりに努め、今年度については、子育てセミナーを1回増やし5回開催し親子にとってよい刺激となったとの感想もあり好評だった。 ・保育所開放は各保育所月1回実施し定着している。 (利用延べ人数 保護者、乳幼児 706名)				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	課題	対応方向			
	①特になし	・子育てセミナーは、毎年実施している子育て支援に関するアンケートを踏まえて、関係機関の協力を得ながら、より親しみのある事業内容の実施に努める。 ・保育所開放は定着しているので継続して行っていく。			
評価委員の意見・提言	関係機関との連携のもと、今後とも利用者のニーズを把握しながら、事業の充実に努めていただきたい。				

令和2年度(令和元年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	Ⅰ 幼児期の保育及び教育の推進				
主要施策	Ⅱ 保育施設の整備				
取り組みの概要 (事務事業)	①旧洞爺保育所の解体工事				
	②本町保育所と入江保育所の統合移築の検討				
実施状況	①令和元年度内に予定どおり解体した。				
	②保育所の在り方検討案について、新築及び改築など候補地の検討をするとともに、統合移築について、町内私立幼稚園からの申出もあった結果、保育所と幼稚園をそれぞれ選択できるよう方向性を決定し住民説明会等を実施した。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(元年度)	
		30年度	元年度	国・道	その他
	①洞爺保育所新築工事	228,348	0	0	228,300
	①旧洞爺保育所解体工事	0	7,370	0	7,300
評価	①令和元年度内に予定どおり解体した。				
	②統合移築について、開設場所及び町内私立幼稚園からの申出を含めて保護者及び町民からの意見を聞いたうえで検討を進め、方向性を決定した。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	課題	対応方向			
	①特になし	虻田小学校へ移築することを決定し、スケジュール調整を行っていく。			
	②特になし				
評価委員の意見・提言	本町保育所と入江保育所の統合移築については、スケジュールが見えた段階で、それに沿って進めていただきたい。				

事務事業評価シート

		担当課	管理課			
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進					
主要施策	ア 学校運営の充実《取組その1》					
取り組みの概要 (事務事業)	①コミュニティ・スクールの実施 ②小中乗り入れ(授業)の実施 ③ICT(タブレット)活用授業の調査研究 ④GIGAスクール構想の推進					
実施状況	①平成29年度より洞爺地区でコミュニティスクールを導入し、虻田地区においては平成30年度より導入し、令和元年度においては新型コロナウイルスの感染拡大により各校とも3回予定のところ2回の協議会開催となった。 ②虻田中学校区及び洞爺中学校区でそれぞれが、小中の連携を進めた。 ・洞中ととう小間では中学の体育教員が小6児童を4回指導。また国語についてはT2として授業支援を行った。 ・虻中と虻小間では2回実施。虻小英語で体験入学時に虻中教員がTT指導のT1T2として実施。また、虻小理科で虻中教員がTT指導のT1T2として実施。 ・虻中と温小間では1回実施。温小英語指導で虻中教員がTT指導のT1として実施。 ③スタンダード10研修委員会が中心となり、町教研と連携しICT活用について今後の方向性の検討を行い、授業改善等についての研修を実施した。 ④文部科学省の補助事業を活用し、令和元年度にネットワーク整備事業補助金の交付申請を行い交付決定を受けた。なお本事業については、令和2年度へ予算を繰越し事業を行うこととした。(事業費:45,044千円、補助金22,522千円)					
事業費	事務事業		決算額(千円)		特定財源(元年度)	
			30年度	元年度	国・道	その他
	①コミュニティ・スクールの町内全校実施		520	225	0	0
	②小中連携の実施		0	0	0	0
	③スタンダード10研修委員会の開催		186	231	0	0
	④GIGAスクール構想の推進(予算額)		0	45,044	22,522	0
評価	①町内各校に設置されているコミュニティスクールにより、協議会は2回開催となったが、よりよい学校教育を推進することができた。 ②小中連携は、中学校区ごとに実施され、T1及びT2により、小学生の中学校進学への不安感の減少につながるなどの成果等も確認された。 ③スタンダード10及び町教研においてICT(タブレット)を活用した授業の調査研究を進めた。 ④GIGAスクール構想により、ネットワーク整備事業の交付申請を行い、3月会議で補正により予算の承認を得ることができた。					
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。			
課題と対応方向	課題		対応方向			
	①②③特になし ④可能な限り早期整備を図るよう努める。		①今後も継続し取り組んでいく。 ②今後も積極的に取り組んでいく。 ③新たなスタンダード5により、今後も取り組んでいく。 ④次年度での早期に契約締結し、事業を進めていく。			
評価委員の意見・提言	コミュニティ・スクール、小中乗り入れ(授業)及びICT(タブレット)活用授業の調査研究については、これまでどおり進めるとともに、GIGAスクール構想については、計画どおり進めていただきたい。					

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	ア 学校運営の充実《取組その2》				
取り組みの概要 (事務事業)	①教育指導専門員の配置 ②全国学力・学習状況調査 ③学習支援員の配置 ④外国語巡回指導教員の配置				
実施状況	①引き続き1名配置した。(平成27年度から配置) ②令和元年度全国学力・学習状況調査を、町内全小中学校を対象に実施し、町内の調査結果を分析した。 ③基礎学力向上を図るために、学習支援員3名を配置した。 ④令和2年度から本格実施される小学校の英語の教科化等に向け、外国語巡回指導教員(虻中教員)を配置し、準備を進めた。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(元年度)	
		30年度	元年度	国・道	その他
	①教育指導専門員の配置	2,669	2,879	0	0
	②全国学力・学習状況調査	0	0	0	0
	③学習支援員の配置	6,444	6,756	0	0
	④外国語巡回指導教員の配置	0	0	0	0
評価	①教育指導専門員の配置により、教育委員会として各学校へ専門的な指導、アドバイスができた。 ②全国学力・学習状況調査への参加及び独自の学力調査の実施により、現状の傾向や課題を把握し、分析し、児童生徒個々の教科指導が図られている。 ③町独自の学力向上対策のための支援員の配置により、授業の円滑化や学習姿勢、意欲の意識向上とともに、学力向上も図られつつある。 ④外国語巡回指導教員(虻中教員)を配置し、令和2年度から本格実施される小学校の英語の教科化等に向け、毎週、町内小学校を巡回訪問し、英語の授業等で実践のなかで指導方法を教授し小学校教諭に学んでもらうことができた。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	①特になし ②全国学力・学習状況調査の結果活用 ③学力の向上 ④指導力の向上		①引き続き配置を継続する。 ②学力向上に向けた取組として、全国学力・学習状況調査における現状の傾向や課題の把握、分析をはじめ各学校の取り組みの充実を図るため継続して実施する。 ③引き続き、学習支援員の配置を行っていく。 ④令和2年度から本格実施される小学校の英語の教科化等に向け、しっかりと準備ができた。今後は小学校の英語の授業等の状況を確認していく。		
評価委員の意見・提言	引続き事業を進めていただきたい。				

事務事業評価シート

	担当課	管理課			
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	ア 学校運営の充実《取組その3》				
取り組みの概要 (事務事業)	①独自学力検査の実施 ②中学生実用英語検定・漢字検定料助成				
実施状況	①町独自の「標準学力調査(全面改訂版)」を実施した。 ②実用英語技能検定及び日本漢字能力検定料について当該年度の1回分を助成した。 * 受験者数 イ 実用英語技能検定 50名(受験率 26%) 前年度28名(受験率 19%) ロ 日本漢字能力検定 33名(受験率 17%) 前年度39名(受験率 27%)				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(元年度)	
		30年度	元年度	国・道	その他
	①独自学力検査の実施	506	540	0	0
	②実用英語検定・漢字検定料の助成	157	184	0	0
評価	①町独自の「標準学力調査(全面改訂版)」を実施により、児童生徒個々の教科指導が図られている。 ②学習意欲の向上につなげる取り組みとなった。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	①学力の向上 ②参加者の増及び学力の向上		①町独自の「標準学力調査(全面改訂版)」の実施など、引き続き支援していく。 ②2年目の実施であったが、参加者が少なかったことから、参加者の増を図るとともに、学習意欲の向上を図り、学力の向上につなげる取り組みとしては有効と思われることから、引き続き実施していく。		
評価委員の意見・提言	漢検及び英検については、学習意欲の向上に繋げる取組として、今後も必要であると考えられることから、引き続き実施していただきたい。				

事務事業評価シート

	担当課	管理課			
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	ア 学校運営の充実《取組その4》				
取り組みの概要 (事務事業)	①働き方改革の推進(部活動方針の策定など)				
実施状況	・洞爺湖町立学校に係る部活動方針について、部活動における取り組みが過度とならないよう配慮し、持続可能なものとなるよう策定した。 ・洞爺湖町立学校における働き方改革指針について、勤務時間の短縮に向けた取り組みについて修正した。 ア 業務を行う時間の上限の設定 【上限時間の原則】 (ア)1日の在校等時間から所定の勤務時間を除いた時間の1ヶ月の合計時間 45時間 (イ)1日の在校等時間から所定の勤務時間を除いた1年間の合計時間 360時間 イ 教職員の長時間勤務を軽減するため留守番電話及びタイムレコーダーを設置した。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(元年度)	
		30年度	元年度	国・道	その他
	①留守番電話、タイムレコーダー設置	0	451	0	0
評価	・教員の休養日や活動時間を設定し、心身のリフレッシュや生徒とのバランスのとれた関わり方を図ることができた。 ・教員の時間外勤務の負担軽減に向けた取り組みを進めることができた。 * 留守番電話及びタイムレコーダーは、令和元年度に設置、令和2年度より運用を開始。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	①教員の勤務時間の短縮		①部活動方針及び働き方改革指針に基づき、児童生徒の多様な学びを止めることなく、教職員一人一人の意識改革とともに、勤務時間短縮の取り組みを進める。		
評価委員の意見・提言	教職員の負担が過度にならないよう、働き方改革を進めていただきたい。				

令和2年度(令和元年度実施)

事務事業評価シート

	担当課	管理課			
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	イ 特別支援教育の充実				
取り組みの概要 (事務事業)	①介護員・支援員の配置 ②指導計画・教育支援計画の充実				
実施状況	①特別支援教育支援員6名、特別支援学級介護員8名及び外国から転入した児童生徒対応学習支援員1名を配置した。 ②特別な支援を要する児童生徒への個別の教育指導計画や個別の教育支援計画の策定を進めている。また、子どもたちの育ちと学びを支えるため、個別の支援ファイルを配布し活用を図るようにした。 特別支援教育の充実を図るために、北海道特別支援教育センターの研究者を講師として呼んだ研修会には、保育士や小中学校教員等50名以上の参加があった。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(元年度)	
		30年度	元年度	国・道	その他
	①介護員・支援員の配置	27,911	29,400	0	0
	②指導計画・教育支援計画の充実	42	51	0	0
	(支援ファイル「すくすく」作成費)				
評価	①支援員及び介護員の配置により、特別な支援を要する児童生徒への柔軟な対応や、授業自体の円滑化を図ることができた。なお、令和元年度に外国から転入した児童生徒対応の学習支援員1名を初めて配置したが、当該児童は日本での学校生活に馴染み、楽しんで通学することができるようになった。 ②個別の教育支援計画については、町内小中学校共通の様式を作成したことにより、町内で統一した発達や発育を総合的に捉えることができ、子どもの課題も整理された。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	①介護員、支援員の確保		①授業を円滑に行うため、適正な配置を考慮しながら、継続して配置をする。		
	②支援ファイルの活用促進		②活用の充実を図るため、保護者・関係機関と連携・協議して進めていく。		
評価委員の意見・提言	これまでの取組みを継続し、特別支援教育の充実に努めていただきたい。				

令和2年度(令和元年度実施)

事務事業評価シート

	担当課	管理課			
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	ウ 特別教育等の充実				
取り組みの概要 (事務事業)	①環境教育、防災教育の推進 ②道徳教育の充実				
実施状況	①環境教育については、温泉小学校の「緑はどうなった」事業など、各学校の状況により実施された。特に防災教育では、ジオパーク野外学習テキストを基に、洞爺湖有珠火山マイスターの協力による体験学習授業。また、平成26年度より町内中学校2年生を対象とした避難所開設体験学習が行われ、避難所生活の話、居住スペースづくり及び避難所運営を模擬体験するゲーム「HUG(ハグ)」など、様々な体験を行った。 また、洞爺湖温泉小学校においては、1日防災学校を行い、全学年で防災学習を体験した。 ②小学校で既に本格実施された特別の教科『道徳』について、中学校では令和元年度から本格実施された。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(元年度)	
		30年度	元年度	国・道	その他
	①環境教育、防災教育の推進(避難所開設体験学習会)	41	65	0	0
	②道徳教育の充実	0	0	0	0
評価	①各学校の実情にあわせた防災教育・環境教育が行われている。また、避難所開設体験学習では、体験内容も実行委員会で検討を行い、内容の充実が図られてきている。 ②中学校において本格実施されたが、事前の各種研修参加などを重ね、スムーズな取り組みがなされた。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	①避難所開設体験学習及び1日防災学校の実施内容等の検討		①実施内容の更なる充実を図る。		
評価委員の意見・提言	児童生徒の豊かな心を育むなど、道徳教育の充実に努めていただきたい。				

令和2年度(令和元年度実施)事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	エ 児童生徒の健康及び安全の充実《取組その1》				
取り組みの概要 (事務事業)	①体力向上の推進 ②フッ化物洗口事業 ③いじめ、問題行動、不登校等への対応				
実施状況	①令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査を町内全小中学校対象に実施した。 ②町内3小学校及び町内2中学校の全てでフッ化物洗口普及事業を実施した。③年2回の道教委のいじめに関するアンケート調査、学校独自のアンケート調査に加え、心理テスト(ハイパーQU)を実施した。また、必要に応じて、スクールカウンセラーの派遣を実施した。不登校児童生徒については、読書の家において、教育指導専門員が児童生徒の心のケアも含めて学習の支援を行った。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(元年度)	
		30年度	元年度	国・道	その他
	①体力向上の推進	0	0	0	0
	②フッ化物洗口事業の実施	299	198	0	0
	③いじめ、問題行動、不登校等への対応	398	415	0	0
評価	①全国体力・運動能力、運動習慣等調査への参加により、現状の傾向や課題を把握し、分析し、令和元年度は、小学校の実技調査では体力合計点について男女とも全国平均を上回った。また中学校は、体力点合計で男女共に全国平均を下回ったが、種目別では男子が2種目(握力、反復横跳び)全国平均を上回り、女子も2種目(握力、立ち幅跳び)全国平均を上回った。 ②保護者の理解を深め、関係機関と連携を図り、フッ化物洗口事業を円滑に実施できた。 ③アンケート調査や心理テストの結果を検証し、いじめに関する早期発見及び所要の対応を的確に実施することができた。また、必要に応じたスクールカウンセラーの派遣により、円滑な学校運営を図ることができた。不登校児童生徒については、教育指導専門員の努力もあり、一部生徒の登校につながることができたが、中1ギャップなどにより不登校生徒が増加した学校も発生した。				
達成度	B	説明	達成度は比較的高い。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	①特になし ②特になし ③心理テストの有効活用		①体力向上のため、各学校の取組充実と併せ現状の取組を推進していく。②今後も継続して実施していく。③いじめ、問題行動、不登校等への対応として、スクールカウンセラーの派遣を今後も継続する。心理テストについては、原則年2回として実施し有効活用を図る。また、不登校児童生徒対策については、教師間及び保護者との連携を図り、迅速かつ生徒に寄り添った対応を図るよう努める。		
評価委員の意見・提言	関係機関等が連携し、いじめ、不登校等に対する取組を進めていただきたい。				

	担当課	管理課			
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	エ 児童生徒の健康及び安全の充実《取組その2》				
取り組みの概要 (事務事業)	①通学路の安全確保 ②各種安全教室等の開催				
実施状況	①通学路等交通安全推進会議による通学路危険箇所等の合同点検を実施し、その結果を町ホームページへ掲載した。 ②地震や火災を想定した避難訓練、交通安全教室、薬物乱用防止教室などを実施した。				
事業費	事務事業	決算額(千円)	特定財源(元年度)		
		30年度	元年度	国・道	その他
	①通学路の安全確保	0	0	0	0
	②各種安全教室等の開催	0	0	0	0
評価	①通学路等の安全確保に向け合同点検を実施し、通学路等の危険箇所等、今後の対策等について、共通理解を図ることができた。 ②各種安全教室の実施により、児童生徒の安全対応能力や防犯意識の向上が図られた。				
達成度	A	説明	予定通り実施できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	①特になし ②特になし		①通学路等の安全確保に向け、合同点検を実施し、安全対策の推進に努める。 ②今後も各学校の実情に応じて継続する。		
評価委員の意見・提言	今後とも関係機関が連携し、通学路の安全確保など、事業の充実に努めていただきたい。				

令和2年度(令和元年度実施)

事務事業評価シート

	担当課	管理課			
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	オ 高校教育の充実				
取り組みの概要 (事務事業)	①虻田高校への支援 ②今後の在り方の協議				
実施状況	①「虻田高等学校の未来づくりに関する提言書」に基づく支援事業を行った。 ②「提言書」を実行性のあるものとするため、虻高未来づくりフォローアップ活動推進委員会の発足の準備を行った。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(元年度)	
		30年度	元年度	国・道	その他
	①虻田高校への支援	529	2,414	0	0
	②今後の在り方の協議	151	0	0	0
評価	①生徒募集活動等必要な支援を行うことができた。 ②虻高未来づくりフォローアップ活動推進委員会は、令和元年度発足を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、年度内に発足できなかった。				
達成度	B	説明	達成度は比較的高い		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	①入学者増につながる支援策 ②提言書としてまとめた意見を次へつなげる活動の推進		①②虻高未来づくり推進会議で虻高の魅力化の発信及び入学者増となるような支援策を検討・協議し、提言としてまとめた内容を実行していく。また、既存の支援策の評価・検証及び新たな支援策の検討については、虻高未来づくりフォローアップ活動推進委員会の中で協議を行い、入学者増に努める。		
評価委員の意見・提言	虻田高等学校の未来づくりに関する提言書に沿った事業の取組みを進めていただきたい。				

令和2年度(令和元年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	カ 学校施設の整備				
取り組みの概要 (事務事業)	①学校施設の維持・管理の推進				
実施状況	①町内小中学校施設に係る工事及び修繕を実施した。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(元年度)	
		30年度	元年度	国・道	その他
	①学校施設の維持・管理の推進	14,497	17,636	0	0
評価	①学校施設の維持・管理については、児童生徒の安全を優先し必要箇所の工事、修繕を行った。				
達成度	A	説明	当初予算計上分及び緊急を要する修繕は予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	①老朽化した施設の改修		①学校施設の長寿命化計画等、老朽化対策を計画的に行っていく必要がある。		
評価委員の意見・提言	児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、学校施設の維持、管理に努めていきたい。				

令和2年度(令和元年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	キ 地域交流事業の充実				
取り組みの概要 (事務事業)	①箱根町との中学生交流 ②洞爺湖子ども芸術文化フェスティバル				
実施状況	①町内2中学校の生徒6名と箱根町中学生6名が、町の代表として互いの町の親善訪問を行った。 ②昨年に引き続き、町内小・中学校の全児童生徒の参加により、合唱等を発表した。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(元年度)	
		30年度	元年度	国・道	その他
	①箱根町との中学生交流	921	932	0	0
	②洞爺湖子ども芸術文化フェスティバル	480	480	0	400
評価	①姉妹都市箱根町と定期的実施している事業は本事業以外なく、親善交流の大きな柱の1つとして有効な事業である。(訪問～51回目、来町～53回目) ②芸術文化フェスティバルについては26回目となった。昨年に引き続き、全校の児童生徒が参加し、町民の方々から好評を博した。各学校の発表を通して他校の児童生徒の良さに気づき、音楽活動等への意欲向上に結びつけることができた。また、地域住民に学校での教育活動の成果の一端を発信することができた。 なお、平成30年度より広く町民に鑑賞していただくため、土曜日に実施している。				
達成度	A	説明	予定通り実施できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	①②特になし		①②内容等を検討しながら引き続き実施する。		
評価委員の意見・提言	洞爺湖子ども芸術文化フェスティバルについては、引続き地域の方々に観ていただけるよう、取組みを進めていただきたい。				

令和2年度(令和元年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	管理課		
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	ク 進学支援の充実				
取り組みの概要 (事務事業)	①育英資金貸付及び給付事業				
実施状況	・返済を要しない入学時給付金の給付。 【入学時給付金】 給付金額 高校・中等教育学校・高等専門学校5万円、専修学校・大学10万円 令和元年度給付実績～高校生1名、専門学校1名、高等専門学校1名、大学生2名) ・勉強意欲のある学生への学資金等貸付。 【学資金】 貸付基準額(月額:以下の金額以内) 公立高校1万円、私立高校1万円、高等専門学校1,3万円 専修学校・大学1,8万円 令和元年度貸付実績～公立高校3名、私立高校0名、高等専門学校0名、 専修学校・大学2名 【入学時一時金】 貸付基準額(以下の金額以内) 公立高校20万円、私立高校30万円、高等専門学校30万円、専修学校・大学50万円 令和元年度貸付実績～公立高校0名、私立高校0名、高等専門学校0名、 専修学校・大学0名				
事業費	事務事業	貸付額等(千円)		特定財源(元年度)	
		30年度	元年度	国・道	その他
	①育英資金の基金貸付及び給付事業	1,788	1,192	0	1,192
評価	①育英資金基金を活用して勉強意欲がある学生・保護者への経済的負担を軽減することができた。				
達成度	A	説明	予定通り実施できた。		
課題と対応方向	課題	対応方向			
	①貸付条件等の緩和	学資金については、ふるさと納税の指定寄附により資金の確保はできている。貸付の利用は少ないが、さらに有効に運営していく。			
評価委員の意見・提言	適正な運用により、今後とも有効活用を進めていただきたい。				

事務事業評価シート

		担当課	学校給食センター		
推進項目	Ⅱ 学校教育の推進				
主要施策	ケ. 学校給食(施設等)の充実				
取り組みの概要 (事務事業)	①給食センターの管理・運営 ②食育活動の充実 ③虻田給食センター屋根塗装工事				
実施状況	①ハサップに基づいた衛生管理・運営を行い安心・安全な給食提供を行った。虻田給食センターでは3年計画の蒸気回転釜の最終更新と、劣化が進んだ食器箱の更新を行った。洞爺給食センターでは経年使用で不具合があった丸型フライヤーの更新を行った。 ②安心・安全で栄養バランスの取れた給食提供を行うと共に、地場産品の野菜を購入し給食食材に使用した。また、栄養教諭による食育授業を行い食の指導を行った。 ③虻田給食センターに於いては築後35年が経過し雨漏り等の箇所があった事から、屋根塗装工事を実施し施設の長寿命化を行った。				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(元年度)	
		30年度	元年度	国・道	その他
	①給食センターの管理運営費	47,191	48,684	0	2,600
	②食育活動の充実	0	0	0	0
	③虻田給食センター屋根塗装工事	0	2,808		0
評価	① 食提供は1日約561食:年間総数118,011食を、調理後2時間以内に喫食出来る様計画的に提供先6校(虻田高校含む)へ適切に配送を行った。令和元年度は改定給食費で給食提供を行い充実した内容で給食提供が行えた。給食費については、両センターともに納入率100%を達成出来た。(給食費納入額:虻田給食センター 23,251,380円・洞爺給食センター 5,791,500円) ②栄養教諭による食の指導等食育活動を行った。また、食物アレルギー対応では虻田給食センター除去食1名、代替食6名、代替飲料2名、洞爺給食センター除去食4名、代替食1名の給食対応を行い給食事故のない提供に努めた。 ③虻田給食センターの屋根塗装工事を行い雨漏り防止、施設の寿命化を図った。				
達成度	A	説明	予定どおり事業が実施できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	①給食センターの管理・運営の検討		両施設ともに経年劣化が進んでいる事から、施設・機器の維持管理に努め長寿命化に努める。また、給食センターの統廃合の方向性を検討する。		
	②食育活動の充実		栄養教諭による食育活動の充実を図り、児童・生徒への正しい食の知識向上を図ると共に地場産品の使用継続を行う。		
	③特になし				
評価委員の意見・提言	今後とも安心・安全でおいしい充実した給食提供に努めていただきたい。				

令和2年度(令和元年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課		
推進項目	Ⅲ 社会教育の推進				
主要施策	ア 乳幼児事業の充実				
取り組みの概要 (事務事業)	① ブックスタート事業(生後7カ月の乳幼児健診時に絵本を贈呈) ② 子育てメソッド形成事業(家庭教育に関する情報の提供) ※メソッド=目的を達成するための方法 ③ 子育てセミナーの活動支援(セミナーの開催により親同士の情報交換の場の提供)				
実施状況	① 生後7ヶ月の乳児健診を利用し、本を通して親子のふれあいと心や言葉の発達を促し、子育てに対する意識を育てる事業(本の贈呈)を実施した。(参加31名) ② 小学校新入学児童説明会を利用して、保護者に対し家庭における余暇の過ごし方等の情報提供や資料配布により、親子のふれあいの時間を考える機会の提供した。 ③ 関係機関との連携により開催した。(5回-66名)				
事業費	事務事業		決算額(千円)		特定財源(元年度)
			30年度	元年度	国・道 その他
	① ブックスタート事業		35	40	0 0
	② 子育てメソッド形成事業		0	0	0 0
	③ 子育てセミナー		0	0	0 0
評価	① 親子で絵本を楽しむことで、親子のふれあいの時間を提供するなど予定どおり実施できた。 ② 保護者に対し、家庭でテレビやゲームのスイッチを切って読書や談話など、親子のふれあいの時間の大切さなどの情報発信を行い、家庭教育の推進が図れた。 また、小学校においてもノーゲームデーを設けるなどして取組んでいる。 ③ 子育て中の母親同士の情報交換や子育てに関する学習の機会を提供することができた。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	① 贈呈後のフォローアップ		読書の家の活用案内など継続性のある利用促進。		
	② 事業の推進		情報の発信による啓発機会の充実。		
	③ 特になし				
評価委員の意見・提言	乳幼児期は大切な時期であり、事業の充実を図りながら、今後も継続していただきたい。				

令和2年度(令和元年度実施)

事務事業評価シート

	担当課	社会教育課			
推進項目	Ⅲ 社会教育の推進				
主要施策	イ 少年事業の充実（取組その1）				
取り組みの概要 (事務事業)	① 洞爺湖 GENKIDS（小4～中学生を対象とした社会体験クラブの実施） ② 支笏洞爺国立公園指定 70 周年記念環境省連携事業 ③ 友好都市「三豊市」との少年交流事業（ふるさと・ふれあい・フレンドリーツアー）				
実施状況	① 登録会員 26 名で年間 10 回の体験活動事業等を開催した。 ② 関係機関と連携した自然をフィールドとした野外学習を実施した。 ③ 小6対象に応募実施。参加費の一部負担あり。（三豊市児童来町 26 名、三豊市訪問～20 名）				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(元年度)	
		30年度	元年度	国・道	その他
	① 洞爺湖GENKIDS	71	106	21	0
	② 環境省連携事業	—	31	10	0
	③ ふるさとふれあいフレンドリーツアー	2,710	2,421	0	765
評価	① 文化財ウォークや美術見学会、その他の体験事業を通じて町文化財の理解や自然環境への関心が高まり、郷土愛へ繋がることが期待される。 ② 環境省洞爺湖管理事務所との連携により、支笏洞爺国立公園指定 70 周年の機運醸成並びに、いきいき学園との世代間交流の実施にも繋げることができた。 また事業実施にあたり、環境省アクティブレンジャーによる自然環境ガイドを受けることで、洞爺湖周辺の自然について学ぶことが出来た。 ③ 町内 3 小学校から児童が参加して相互訪問交流を通して友好関係を一層深めることができた。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と 対応方向	課 題		対 応 方 向		
	① 登録者の増		周知の徹底。		
	② 環境省との連携の継続		質の高い学習を提供するため、環境省との連携事業を継続的に実施する。		
	③ 相互訪問時期の変更		三豊市への訪問時期を夏季休業中に変更したが、熱中症等の懸念があるため、元の 11 月に戻すことで調整する。		
評価委員の 意見・提言	関係機関と連携を図り、事業の充実に努めていただきたい。また、三豊市との少年交流事業については、一層の友好関係を深めるよう両市町で充分協議の上、取り組んでいただきたい。				

令和2年度(令和元年度実施)

事務事業評価シート

	担当課	社会教育課			
推進項目	Ⅲ 社会教育の推進				
主要施策	イ 少年事業の充実（取組その2）				
取り組みの概要 (事務事業)	④ 放課後児童健全育成事業(町内3箇所において学童保育を実施) ⑤ 学校支援地域本部事業 ⑥ 学習支援事業「地域未来塾」の実施（公設の無料学習塾）				
実施状況	④ 虻田地区(風っ子)29名、温泉地区(洞爺湖クラブ)16名、洞爺地区(とうや児童クラブ)17名利用。 ⑤ 45組の個人・団体が学校支援ボランティアに登録した。 ⑥ 6月～2月の期間中、小中学生を対象に母と子の館(虻田地区)、洞爺総合センター(洞爺地区)主会場として、曜日を定めて常設を実施した。さらに小学生対象にプログラミング学習(8月)、中学生を対象とした高校受験対策(12月)を洞爺湖町役場を会場に実施した。				
事業費	事務事業		決算額(千円)		特定財源(元年度)
			30年度	元年度	国・道 その他
	④ 放課後児童健全育成事業		15,848	17,703	9,856 2,394
	⑤ 学校支援地域本部事業		10	10	10 0
	⑥ 地域未来塾		1,849	1,939	520 0
評価	④ 開所時間延長実施後は、利用者から好評をいただき実施している。 ⑤ 学校支援地域本部事業は、学校が求めるボランティアの活用が図られた。 ⑥ 地域未来塾の実施により、学習習慣を身に付け、基礎学力向上に向けた事業実施が図られている。また、小学生向けプログラミング教室は、北海道・北東北の縄文世界遺産登録の機運醸成を図りながら、ICT/IOTの能力育成へと繋がる事が期待される。(平成27年度延べ173人、平成28年度延べ1,065人、平成29年度延べ1,718人、平成30年度延べ1,392人、令和元年延べ1,046人)				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と 対応方向	課題		対応方向		
	④ 支援員体制確保		支援員の確保策を検討する。		
	⑤ 体制の強化		登録ボランティアの活動を推進するため、関係機関との連携を強化する。		
	⑥ 実施内容の充実		ICTを活用した遠隔ライブ授業の導入を検討。		
評価委員の 意見・提言	放課後児童健全育成事業については、支援員の人材確保に取り組み、事業の充実に努めていただきたい。				

令和2年度(令和元年度実施)

事務事業評価シート

	担当課	社会教育課			
推進項目	Ⅲ 社会教育の推進				
主要施策	ウ 青年・成人教育の充実				
取り組みの概要 (事務事業)	① 成人式、成人のつどいの開催 ② 人づくり育成事業の実施 ③ 英会話教室の開催				
実施状況	① 新成人の前途を祝し、成人としての自覚を促す成人の集いを開催した。 (出席 65名) ② 人材育成及び地域活性化を目的に国内先進地の視察研修費用を助成した。 ③ 英会話学習の機会確保、英国青年との交流を目的に開催した。 (参加延べ 40 名)				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(元年度)	
		30年度	元年度	国・道	その他
	① 成人の集い	141	133	0	0
	② 人づくり育成事業	199	599	0	0
	③ 英会話教室	—	0	0	0
評価	① 式典は新成人として自らの行動に責任を負い、また、将来の社会を担う一員として自覚する機会となった。 ② 人材育成、地域活性化のための研修として4団体の活用があった。 申請に際しては、予算確保のため、前年度に事業計画を提出してもらい、希望する団体が研修できる仕組みづくりを行った。 ③ 参加者から、実施回数を増やしてほしいという要望もあるが、コロナウィルス関係により、英国青年が帰国している状況も踏まえ、事業定着までは現状維持。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	① 成人年齢の引下げ		成年年齢を引き下げる民法改正により、2022 年施行に向けて成人式の実施内容等の見直しを行っていく。		
	② 活用の推進		団体等が積極的に活用できるよう、周知に努める。		
	③ 事業の定着		町民のニーズに応えた教室の開催に向けて取り組む。		
評価委員の意見・提言	成人式の実施内容の見直しを進めていただきたい。また、各教室の開催については、町民のニーズに応じた事業に努めていただきたい。				

令和2年度(令和元年度実施)

事務事業評価シート

	担当課	社会教育課		
推進項目	Ⅲ 社会教育の推進			
主要施策	エ 女性事業の充実 オ 男女共同参画事業の充実			
取り組みの概要 (事務事業)	① 女性団体の活動支援 ② 胆振女性リーダー養成研修参加 ③ きずな学級の開催(男女を問わず身近なテーマを掲げ、地域づくりや活動促進、男女共同参画などを考える講演会)			
実施状況	① 女性団体の活動支援をするための補助金を支出した。 ② 胆振女性リーダー養成研修へ派遣した。 1名 ③ 「指ヨガ」並びに「フレイル予防」をテーマにきずな学級を開催し60名の参加があった。			
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(元年度)
		30年度	元年度	国・道 その他
	① 女性団体の活動支援	220	150	0 0
	② 胆振女性リーダー養成研修	48	52	0 0
	③ きずな学級の実施	0	10	0 0
評価	① 女性団体に対する補助金により団体の自主的な活動の支援が図られた。 ② 研修派遣に伴い、女性団体活動の中核を担う女性リーダーの養成を図ることができた。 ③ きずな学級については、「指ヨガ」並びに「フレイル予防」をテーマに実施。 指ヨガの実演により、健康づくりについて楽しく学び、フレイル(寝たきり)にならないための食事などの知識を学ぶことで、本町のキーパーソン育成にも役立った。 (自治会、老人クラブ、ボランティア協議会等)			
達成度	A	説明	予定通り実施できた	
課題と対応方向	課題		対応方向	
	① 後継者の育成		会員の高齢化に伴う、後継者の育成。	
	② 参加者の確保		参加については男女問わず参加可能となっており、継続した参加者の確保を図る。	
	③ 事業の充実		参加者の増。男女共同参画の醸成に繋がる内容の充実。	
評価委員の意見・提言	女性団体の後継者育成に向けた活動支援に努めていただくとともに、きずな学級については、事業内容に工夫を凝らして実施されており、引続き事業の充実を図りながら、参加者増に取り組んでいただきたい。			

令和2年度(令和元年度実施)

事務事業評価シート

	担当課	社会教育課			
推進項目	Ⅲ 社会教育の推進				
主要施策	カ 高齢者事業の充実				
取り組みの概要 (事務事業)	① 高齢者事業等の実施(いきいき学園の取組)(登録制による高齢者学級)				
実施状況	次のとおり実施・開催した。 ① いきいき学園 6月～2月の9回開催。登録会員:45名 第1回始業式、少年の主張大会観覧 第2回世界遺産講座 第3回視察研修(千歳市) 第4回美術見学会(共和町、岩内町):ゲンキッズ合同 第5回スポーツまつり:ゲンキッズ合同 第6回秋のウォーキング:ゲンキッズ合同 第7回そば打ち体験:ゲンキッズ合同 第8回編み物教室 第9回健康づくり講話 第10回シルバー料理教室(コロナ関係にて中止) 参加延べ人数 173名				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(元年度)	
		30年度	元年度	国・道	その他
	① いきいき学園	235	143	0	0
評価	① 地域の指導者や学習資源を活用しながら多様な学習機会を提供し、参加者からの意見も伺いながら予定の行事を執り進めることができた				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。(コロナ関係にて1回中止)		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	① 新規参加者の増		男性参加者も徐々に増えてきており、事業周知の継続とともに企画内容の充実を図る。		
評価委員の意見・提言	参加者のニーズや新規登録者の増に繋がる企画内容の充実に努めていただきたい。				

令和2年度(令和元年度実施)

事務事業評価シート

	担当課		社会教育課		
推進項目	Ⅳ 芸術文化の振興				
主要施策	ア 芸術文化活動の充実				
取り組みの概要 (事務事業)	① 各種発表会等の開催・支援 ② 美術見学の機会の提供				
実施状況	① 総合文化祭(虹田地区)、洞爺湖町民文化祭(洞爺地区)を開催した。 (洞爺湖町文化団体協議会) 展示部門 10/26～10/28 あぶた体育館 ステージ部門 10/19～20 あぶたふれ合いセンター (とうや文化協会) 展示部門 11/2～4 洞爺総合センター ステージ部門 11/23 なお、ふれ合う心の文化広場はコロナ関係で中止となった。 ※主催:洞爺湖町文化団体協議会 ・各種団体等との連携として、町民ロビー展(開催回数 7 回)を実施した。 ② 美術見学会は、美術館や博物館を巡り鑑賞の機会を提供した。 (9/7 共和町かかし古里館、岩内町木田金次郎美術館 35 名)				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(元年度)	
		30年度	元年度	国・道	その他
	洞爺湖町文化団体協議会活動運営事業	300	300	0	0
	とうや文化協会活動運営事業	100	100	0	0
	美術見学会	29	100	0	27
評価	① 虹田地区の総合文化祭及び洞爺地区の町民文化祭ともに、相互協力のもとに開催することができた。 町民ロビー展は、町内各団体や個人による作品発表の場となっている。 ② 美術見学会の実施に伴い、参加者からも好評で鑑賞機会の提供ができた。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	① 人材の発掘・活動の支援		発表の場の提供、個人・団体の活動支援。		
	② 芸術文化の鑑賞機会の提供		町民のニーズに応えた見学会の提供。		
評価委員の意見・提言	洞爺湖美術館の活用を含め、地域文化振興資源の有効活用を図り、芸術文化活動の推進に取り組んでいただきたい。				

令和2年度(令和元年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課		
推進項目	Ⅳ 芸術文化の振興				
主要施策	イ 入江・高砂貝塚保存整備・運営の充実（取組その1）				
取り組みの概要 (事務事業)	① 高砂貝塚の保存整備事業 ② 縄文まつり等企画事業 ③ 文化財ウォークラリー				
実施状況	① 高砂貝塚環境整備等経費 14,483千円（園路整備、貝塚遺構の復元） ② 第11回縄文まつりを開催した。（入江貝塚公園 7/15 200名） 縄文ロビー講座を実施した。（ふれ合いセンター 3回 79名） 文化財防火デーを実施した。（1/26 18名） ③ 文化財ウォークラリー（豊浦地区）を実施した。 6/8 39名				
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(元年度)	
		30年度	元年度	国・道	その他
	① 高砂貝塚保存整備事業	23,479	14,483	6,567	7,600
	② 縄文まつり等企画事業	129	103	0	0
	③ 文化財ウォークラリー	0	0	0	0
評価	① 平成27年度から6か年計画で整備を実施。高砂貝塚については園路整備、遺構の復元整備が完成した。 ② 自治会や関係団体と連携し、縄文を学び、発信する機会が図れた、また、町内の貴重な文化財を火災等から守る意識を学ぶ機会となった。 ③ 郷土の理解と文化財等に関する学習、健康増進が図れた。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	① 計画に基づく整備		年次計画による周辺施設を含めた整備。		
	② 参加者数の増		縄文への理解を深める内容の充実と周知。		
	③ 事業内容の検討		近隣市町と連携した取組の検討。		
評価委員の意見・提言	近隣市町との連携により、事業の充実を図るなど、町の文化振興に努めていただきたい。				

令和2年度(令和元年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課		
推進項目	Ⅳ 芸術文化の振興				
主要施策	イ 入江・高砂貝塚保存整備・運営の充実（取組その2）				
取り組みの概要 (事務事業)	① 縄文遺跡群の世界遺産登録推進事業 (北海道・北東北の縄文遺跡群として世界遺産登録に向けて4道県(北海道、青森県、岩手県、秋田県)の17遺跡からなる考古学的資産) ② ICOMポストカンファレンスの開催				
実施状況	① 縄文遺跡群世界遺産登録推進事業 国内推薦の決定、景観計画策定委員会を立ち上げ、景観計画の検討を行った。 ② 「北海道・北東北の縄文遺跡群」構成資産を有する伊達市及び洞爺湖町において、京都で開催されるICOM(国際博物館会議)後に関係者を誘致した。				
事業費	事務事業		決算額(千円)		特定財源(元年度)
			30年度	元年度	国・道 その他
	① 縄文世界遺産登録推進事業(負担金)		391	782	0 0
	② ICOMポストカンファレンス		—	517	0 241
評価	① 国内推薦については、予定通り決定された。 景観計画については、第1回策定委員会を開催した。 ② シンポジウムや、遺跡視察を通じて入江・高砂貝塚並びに、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録への取組等を国内外に発信することができた。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	① 登録及び景観計画策定に向けた取組		国内推薦となったことから、今後は関係機関との連携を一層強化し、ICOMOS(国際記念物遺跡会議)の現地審査の対応等、登録に向けて取り組んでいく。また、景観計画の早期策定に向け、関係機関と連携して取り組んでいく。		
	② 多言語対応等		世界遺産登録認定に向けて、解説パネル並びにパンフレット等を、多言語化対応することが必須事項のため、準備を進める。		
評価委員の意見・提言	関係機関と連携を図り、北海道・北東北の縄文遺跡群の世界文化遺産登録に向けて、しっかりと準備を進めていただきたい。				

令和2年度(令和元年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課	
推進項目	Ⅳ 芸術文化の振興			
主要施策	ウ 町内文化財の保存活用			
取り組みの概要 (事務事業)	① 充実した施設の運用 ② 指定文化財の保存と活用			
実施状況	① 洞爺地区、虻田地区の郷土資料館(室)は、当町における開拓の歴史や地域の発展に使われてきた貴重な用具などの資料を後世に伝承する空間として利用を図っている。 ② 洞爺湖町指定文化財である各獅子舞保存会への支援(月浦獅子舞、香川獅子舞、曙獅子舞) 月浦獅子舞へ備品の整備(半纏)のため、支援を行った。			
事業費	事務事業	決算額(千円)		特定財源(元年度)
		30年度	元年度	国・道 その他
	① 郷土資料館特別展	0	0	0 0
	② 各獅子舞保存会補助金	150	388	0 0
評価	① 施設における収蔵展示資料については、郷土を知るための詳細な解説板や解説資料などを備えており、学校等地域学習を含め、地域の歴史を学べる場として提供することができた。 ② 月浦獅子舞保存会に対して必要となる備品の支援をすることができた。			
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。	
課題と対応方向	課題		対応方向	
	① 利用者の増・定期的な展示替え・資料の収集		地域の方々と連携し、定期的な展示替えや、特定資料による特別展示の開催、周知により利用者の増加や、次の世代に継承できるよう今後も資料の収集に努める。	
評価委員の意見・提言	② 指定文化財へのさらなる支援		香川・曙獅子舞保存会に対しても必要な備品整備等支援に努める。	
	貴重な郷土資料の適正な保存管理に努めるとともに、引続き各獅子舞保存会の保存伝承の取り組みの支援に努めていただきたい。			

令和2年度(令和元年度実施)

事務事業評価シート

			担当課	社会教育課	
推進項目	Ⅳ 芸術文化の振興				
主要施策	エ 読書活動の振興				
取り組みの概要 (事務事業)	① 読書環境・活動の充実 ② 読書感想画・読書紹介文募集事業				
実施状況	① あぶた読書の家での読み聞かせ(定期)及び読書週間での読み聞かせイベントなどを実施した。洞爺総合センターでの図書室こどもまつりは、コロナウイルスの影響で中止となった。 ② 読書感想画、読書紹介文募集事業(151名)				
事業費	事務事業		決算額(千円)		特定財源(元年度)
			30年度	元年度	国・道 その他
	① 読み聞かせ		35	20	0 0
	① 読書の家維持管理事業		5,976	6,258	0 0
	② 読書感想画・紹介文募集事業		14	14	0 0
評価	① 子どもが読書に親しみ、本を読むきっかけづくりができた。また、学校や福祉施設へ毎月まとまった冊数を定期貸出が定着し貸出数の増に繋がった。 ② 読書感想画、読書紹介文募集事業を洞爺湖ロータリークラブとの共催で継続実施。虻田中学校の全校取り組みもあり、継続した取り組みが図られた。				
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。		
課題と対応方向	課題		対応方向		
	① 施設の利用促進		図書関連行事等の情報発信やサークルの支援に努める。		
	② 活動の充実		共催団体と連携し、学校などへの働きかけに努める。		
評価委員の意見・提言	利用者のニーズに沿った図書を整備するなど、読書活動の振興に繋がる取り組みを進めていただきたい。				

令和2年度(令和元年度実施)

事務事業評価シート

	担当課		社会教育課	
推進項目	V スポーツ活動の推進			
主要施策	ア 体育振興事業の充実			
取り組みの概要 (事務事業)	① 体育振興事業の充実			
実施状況	① スポーツの普及、推進を図るため共催、後援事業を含めて各種スポーツ大会や教室の開催において関係団体等と連携し、実施した。またレークスポーツなど地域の特性を活かした事業を実施した。			
事業費	事務事業		決算額(千円)	
			30年度	元年度
			国・道	その他
	① スポーツ大会・教室の開催及び支援		1, 238	1, 134
			0	0
評価	① 小学生から高齢者までを対象としたニュースポーツ(ウォーキングサッカー)の普及に努めた。スポーツ推進委員による体験会を開催した。 また、スポーツ振興基金の遠征費助成要項について、基金運営委員会によって助成内容の充実が図られたことで、町内スポーツ団体の町外遠征が推進された。			
達成度	A	説明	予定どおり実施できた。	
課題と対応方向	課題		対応方向	
	① 体育事業の円滑実施と参加者の確保		スポーツ推進委員等との連携により、スポーツ教室の内容の検討を行い、円滑な体育事業の実施に努める。	
評価委員の意見・提言	地域資源を活用するなど町民がスポーツに親しみ、楽しんでもらえるよう関係団体等と連携を図り、体育の振興に取り組んでいただきたい。また、スポーツ振興基金については、今後とも有効活用を進めていただきたい。			

令和2年度(令和元年度実施)

事務事業評価シート

		担当課	社会教育課			
推進項目	Ⅵ 社会教育施設及び社会体育施設の充実等					
主要施策	ア 社会教育施設及び社会体育施設の整備					
取り組みの概要 (事務事業)	① 施設の維持管理 ② 旧洞爺湖温泉中学校体育館の有効活用の協議					
実施状況	① 社会教育施設及び体育施設においては、円滑な定期利用調整を図れた。 3月には新型コロナウイルス感染拡大防止のため、施設を休館とした。 ② 旧洞爺湖温泉中学校体育館の施設活用については、地域の方々や関係団体等と、地域やスポーツ団体の体育振興や指定避難所としての役割を含めて施設の活用にむけた協議を行った。					
事業費	事務事業		決算額(千円)		特定財源(元年度)	
			30年度	元年度	国・道	その他
	① 社会教育施設維持管理事業		15,240	14,697	0	866
	① 体育施設運営事業		15,880	12,534	0	766
	② 旧洞爺湖温泉中学校体育館活用協議		0	0	0	0
評価	① 社会教育施設及び体育施設の利用において、必要な修繕を行いながら、利用者の安全確保に努め、サークル活動の支援やスポーツ推進を図れた。 ② 旧洞爺湖温泉中学校体育館については、体育館の整備と有効な利活用に向けて協議を進めた。					
達成度	A	説明	既存の施設において必要な整備を行うことで、利用者の安全確保や設備等の充実が図られた。			
課題と対応方向	課題		対応方向			
	① 安全安心なスポーツの推進		施設利用者の安全に努め、適正な維持管理を行う。			
	② 整備内容の検討・協議		体育館の整備に向けて、費用対効果を含めた検討・協議を進める。			
評価委員の意見・提言	施設の適正な維持、管理に努め、引続き利用促進に取り組んでいただきたい。 旧洞爺湖温泉中学校体育館については、費用対効果を含めた整備内容の検討・協議を進めていただきたい。					